

滋賀の文化情報誌
デュエット
Duet

2023 春 vol.145

特集

国友鉄砲ミュージアム



私の出版体験

『家康と甲賀忍者・大原一族』

INFORMATION STATION 催し案内 2023 春

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

特集 **国友鉄砲ミュージアム**

国友鉄砲ミュージアムの前を通る「小谷道」。正面が国友一貫斎生家、左は一貫斎の天体観測にちなんで平成元年に設置された「星を見つめる少年」像

戦国時代の湖北に生まれた「鉄砲産地」であり、江戸時代には天体望遠鏡などを自作した国友一貫斎の生誕地としても知られる長浜市国友町。昭和50年代の町づくり活動から生まれ、今も自治会による運営が続けられている資料館の成り立ちを、当時を知るお二方も招いて振り返っていただきました。



■国友鉄砲ミュージアム

住所 長浜市国友町534

連絡先 TEL 0749(62)1250 FAX 0749(62)1250

休 館 日 年末年始 (12/28 ~ 1/3)

入館料 一般300円、小中生150円

駐 車 場 館前に6台(徒歩3分の所に大駐車場あり。バス駐車可)

アクセス JR北陸線「長浜駅」から湖国バス「健康パークあざい」行で「国友鉄砲の里資料館」下車／北陸自動車道「長浜IC」から5分



住民所蔵の資料を展示公開する場として 「鉄砲のまち」に生まれたミュージアム

鉄砲研究会結成とともに始まった鉄砲の買い戻し運動

まず、国友という町自体の立地や歴史からお尋ねしたいと思います。小谷城と長浜城の間を東西に流れる姉川の左岸に面した集落だったのですね。

吉田 当館の前を南北に通っている道は、米原と小谷を結ぶ「小谷道」といって、秀

吉が長浜に城をつくるまでは旧の北国街道でした。

廣瀬 昔の国友橋は、この通りをまっすぐいったところに架かっていたのですが、昭和34年（1959）の伊勢湾台風で流れてしまったんです。本来は、こちらがメインストリート「5ページ写真参照」。

吉田 銀行の支店やいろいろな商店が並んでいて、姉川を渡った旧東浅井郡側の人も買い物に来ていました。

廣瀬 戸数220〜230で、商店街もある農村部の町みたいなのころだったんです。

鉄砲に関わる店もあったので
すか。

廣瀬 今も一軒だけ国友久太郎商店という火薬を扱う店があります。最近まで国友源重郎商店という銃砲店もありました。ともに江戸時代から鉄砲に関わってきたお店です。

京都の寺町通りに国友銃砲火薬店というお店がありますね。

廣瀬 あのお店は、国友一貫斎の曾孫にあたる人が明治の初めに京都に出て始められたものです。

川上 幕末ぐらいから昭和初期まで、国友では花火の製造と打ち上げもするようになって、姉川の河原で打ち上げていたんです。依頼があれば、県内や全国各地に興行

※1 国友銃砲火薬店 京都市下京区に所在。明治34年創業。花火打ち上げの請負。射撃用銃・狩猟用銃・火薬などの販売。

※2 国友一貫斎（1778〜1840）江戸時代後期の鉄砲鍛冶師、発明家。自作の反射望遠鏡で天体観測もおこなった。

として出かけていました。

打ち上げ場所では、「花火陣屋」と呼ぶ、木組みの門とその後ろの三方に幕を張った設備を設けました。花火の指揮所であり、棧敷（見物席）としての役割もあります。花火師組用の一基と町内を東西南北に分けた4組に各一基、計5基あって、打ち上げの際に姉川の河原に設置されました。国友村周辺には同じような花火陣屋を所有する村が10村以上あったそうです。

廣瀬 若い頃、八日市市にいたんですけど、仕事で能登川に出かけていっしょになった人が「坊主は、どっから来てんのや」と聞くので、「長浜の国友です」と答えると、「あの鉄砲のどこか」と言われたのを覚えてます。そういう歴史と文化のある場所という感覚も、自然に身についていました。

廣瀬さんは昭和56年（1981）4月に国友鉄砲研究会を結成なさいます。この時、40歳ですね。



国友鉄砲研究会・「国友一貫斎」科学技術研究会 会長

廣瀬一實さん

ひろせ・かずみ／1941年、長浜市生まれ。本業は量職人、国友鉄砲の整備や復元に取り組む。



湖北アーカイブ研究所 所長

吉田一郎さん

よしだ・いちろう／1942年、長浜市生まれ。長浜市役所勤務のあと、長浜城歴史博物館館長、国友鉄砲ミュージアム館長などを歴任。



国友鉄砲ミュージアム 館長

川上幸夫さん

かわかみ・ゆきお／1953年、長浜市生まれ。元小学校・養護学校教員。2021年4月より就任。



↑大正時代に姉川の河原で催された花火大会。奥に見えるのが花火陣屋（国友鉄砲ミュージアム提供）

廣瀨 僕もふくめて若手3人と年配の方2人の5人で研究会を立ち上げたんです。若手の1人は僕の同級生で、先ほど話に出た国友久太郎商店の国友美丸さん。年配の方はもう亡くなられています。

—— **きつかけは、なんだったのですか。**

廣瀨 その前年に長浜で天守閣の形をした歴史民俗資料館建設の計画が発表されて、その中に鉄砲コーナーもできると知ったからです。これはチャンスだと思って、周りに声をかけました。

—— **鉄砲の買い戻し運動というのも始まったそうですね。**

廣瀨 会の発足と同時に始めたんです。当時、地元に残っていた鉄砲は10挺ちようもありませんでした。全国各地に散らばっていた鉄

種子島訪問を経て鉄砲隊結成

—— **その翌年の昭和57年5月に結成される国友火縄鉄砲隊は、どういった経緯で？**

廣瀨 昭和56年8月の長浜花火大会で、国友にあった花火陣屋を5年ぶりに復元して公開しました。そのための寄り合いのときに、たまたま『家の光』という雑誌に種子島たねがしまの鉄砲隊の写真が載っているのを見た川瀬貢さんが、「おまえ、鉄砲、鉄砲と言っているけれど、種子島を知ってるんかい」と言うてきて、「それなら、みんなで種子島に行こう」という話になって。

研究会以外の人にも声をかけたら、全部で25人に増えて、それを知った市会議長の中野戸工門とえもんさんが、「市長に相談してこい」

※3 『家の光』

JAグループの家の光協会が発行する月刊誌。農協を通じて農家に配布する形態で、最盛期には100万部以上を発行。

※4 西之表市

種子島北部にある市。昭和62年、国友鉄砲の里資料館の開館を機に、長浜市と友好都市の盟約を締結。

砲を、古物商を通じて買い戻そうとしたわけです。長浜市内で営んでおられる古物商はみんな東京に行きますので、「国友産の鉄砲を探している」と触れ回ってもらったんです。そうすると、「うちもほしい」、「うちも」と、多くの家が買い始めて、現在は国友町内で100挺を超える鉄砲があります。そのうちの半分近くがこの館の2階に展示されているんです。

吉田 自分の先祖にあたる人の鉄砲が見つかったら、ほしいですね。

廣瀨 先祖が鉄砲鍛冶だったという人は特別ですが、それほど多くはありません。ほとんどは自分の住む町が、もとは鉄砲鍛冶の町だったという意識のもとで始まった買い戻しでした。

とおっしゃって。行ったら、片山喜三郎市長と、県会議員のあれば……。

吉田 小林実さん。

廣瀨 県会議員の小林さんも行きたいと言いついて大げさになってしまったんです。市長、市会議長、県会議員の3人も同行して、2泊3日総勢28人の訪問団が、昭和57年2月、鹿児島県西之表市にしのおもに向かいました。種子島の飛行場に到着すると、横断幕が掲げられ大歓迎していただきました。

—— **目的の火縄銃の技術を習うのはどうなったんですか。**

廣瀨 行く3日前に、「火縄銃を2、3挺持つてきてください」と連絡があったんです。3挺ほど持つていったら、市役所から1kmほど南にあるわかさ公園で、いきなり火薬を詰めて、「ドーン！」って撃って、空砲を教えてくださいました。警察の許可なしだから、いまだったら無理だな。

—— **鉄砲自体はちゃんと動いたのですか。**

↓「大阪城の秋まつり2020」での国友鉄砲隊による火縄銃の演武。大阪城天守閣前にて、左端が廣瀨さん（太田浩司氏提供）



廣瀨 それは大丈夫、ちゃんと整備した使える鉄砲を持っていたから。すでに種子島訪問と同じ2月に日本前装銃射撃連盟の本部へ入る手続きをしていたんです。

前装銃というのは、古い形式の筒先から火薬と弾丸を込める鉄砲、日本のいわゆる火縄銃です。日本前装銃射撃連盟は、火縄銃で実弾を撃つ砲術の継承をおこなっている団体なわけです。神奈川県伊勢原市にある連盟本部でも、製造元の国友から来たというので、それはもう大歓迎していただきました。会長や役員の方が、新入りの僕を「ちよっとお茶を飲みにいきましょう」と誘ってくださいたり。会員の人たちにとって、種子島、堺、国友というのは特別な場所なんです。

手順さえきちんとやれば、撃つ技術自体はそんなに難しくありません。僕もふくめて、鉄砲研究会で国友鉄砲の歴史や仕組みを研究しているメンバーが、鉄砲隊でも火縄銃をあつかっています。

—— **結成翌年の昭和58年に催された大阪築城400年祭や賤ヶ岳400年祭などで、空砲射撃の演武を披露なさったわけですね。**

廣瀬 そのためによかったのは、銃砲店の国友美丸さんが、最初に火薬使用の許可を取るときに、「学術研究」で取ってくれた

工業団地造成で弾みがついたまちづくり

——資料館の建設にもぎっかけのようなのがあったのですか。

廣瀬 鉄砲の買い戻し運動が始まった頃に、町内で「国友鉄砲展」というのを催したら、各家に仕舞われていた資料や道具類、1000点以上が出てきたんです。

吉田 それらを常設展示できる場がほしいということと、資料館建設の陳情運動を起こしました。ちょうど事業費一億円のうち2分の1ずつ県と市町村が負担する「小さな世界都市づくりモデル事業」というのが始まったので、その一番乗りのつもりで手をあげたのですが、伊香郡高月町雨森（現、長浜市）の東アジア交流ハウス雨森芳洲庵に先を越されて、国友鉄砲の里資料館は第2号として採択されました。

ことでした。普通なら一回ごとに許可を取らなければいけないのですが、ある期間まとめでの申請で済んでいるんです。

——同時に姉川の向こうに工業団地が造成され、長浜キャノン^{※5}が進出してきたことも関わっているのですか。

吉田 これは大きく関わっています。

廣瀬 関わりますよ、それは。

吉田 あれは私が市役所の商工観光課で担当していました。昭和55年4月に北陸自動車道の米原—敦賀間が開通して、長浜インターチェンジも供用開始されます。

昭和50年代の長浜市は、地域経済を支えていた繊維産業の斜陽化が止まらず、若者の地元定着のために就労場所の確保が一番の課題でした。そのために市は工場誘致を進めたのですが、青田を見せても来てくれませんから、土地を造成した工業団地を市がつくることになって、長浜市では国友町

もふくめた3地域で着工されました。

廣瀬 着工前に、兵庫県の社町（現、加東市）にある工業団地を見学に行きました。

——古い地図を見ると、姉川をはさんで北の田地も国友町で、ここが工業団地になったわけですか。

吉田 姉川の右岸の堤防ができたのは明治時代で、ここは田地のように見えますが、もともとは河川敷のようなものだったでしょう。北の宮部という集落が築いた霞堤^{※6}があるので、洪水になっても他の集落の土地まで水が溢れないようになっていました。

——上流で草野川と姉川が合流する場所ですから、当然洪水も多かったのだでしょうね。

廣瀬 そうそう。川向こうは「川北」と呼ばれていて、あまりいい田んぼではなかった。吉田 表土が薄い、石ころガラガラの田んぼです。ですから、昭和56年に市が工業団地をつくりたいと申し入れた時も国友町は協力的で、翌年に川北開発推進委員会を設置、昭和59年には23ha、地権者14人の用地買収が完了しました。

——あまりよい農地ではなかったとはいえ、驚くほどのスピードですね。

吉田 その代替として、長浜市は姉川サイクリング道路、姉川緑地公園など、いろいろな事業を優先的に国友町に施してくれました。

——造成完了が昭和61年（1986）4月で、6月にはキャノンの進出が決まりました。そして、翌年の昭和62年10月に「国友鉄砲の里資料館」としてオープンします。

※5 長浜キャノン キャノングループの企業。プリンターやトナーカートリッジを製造。

※6 霞堤 堤防のある区間に開口部を設け、本来の堤防の外側に堤防を築いて湛水地を設けたもの。洪水時には、下流に流れる水量を減らし、洪水が終わると湛水地内の水を排水する。



↑昭和50年（1975）撮影の空中写真（国土地理院サイトより）



↑平成23年（2011）撮影の空中写真（国土地理院サイトより）



↑銃床の製作工程と道具類。未完成状態の銃床用材は、鉄砲研究会のメンバーの物置から見つかったもの。廣瀬さんは、この用材を一部もらい受けて銃床を復元し、壊れていた火縄銃の修理などをおこなった



↑2階展示室に展示されている鉄砲に用いる道具類。資料には所蔵者名も付されている

例のなかった自治会による資料館運営

資料館の運営を、国友町自治会が担っているというの大きな特徴ですね。

吉田 はい。市が建物をつくってくれたのですが、管理運営・経営は国友町自治会がやっています。自治会が運営委員を委嘱し、館長を任命、館長が運営委員会に諮って、館の運営・経営にあたっている形です。

——どこかの資料館などを見本になさったのですか。

廣瀬 見本になる所はなかったですよ。

吉田 本当は市営にしてほしいと要望していたんですが、市からは、国友町でそれをする、次には石田三成の石田町でも、小堀遠州の小堀町でもつくってくれということになるからダメですと言われて（苦笑）。定額補助で、あとは入館料で賄^{まかな}わなければならないので、展示物ほとんど町内の各家の所蔵品を持ち寄っています。

廣瀬 館所蔵物は少なく、さっきの買い戻し運動で入手した個人蔵の火縄銃を借りて、2階に展示しているわけです。

——個人のお宅に置いておくより、全国からの来館者に見てもらえるし、保存管理も任せられるなら、願ってもない場所ですね。

吉田 自分の持ち物が展示されているので、

資料館への愛着は高まり、住民から次々と新しいアイデアなり運動が起こるようになります。結局、当館で一番自慢できるのはそこなのかもしれません。

——平成に入ると、町内の景観づくりが進められました。

吉田 平成5年（1993）に、県が「風あいのあるまちづくり事業」という制度をつくり、事業費5000万円で、半分は県が拠出して、半分は市町村が出すことになっていました。国友町では資料館という点だけじゃなく、面の景観環境整備を図って、いこうということで、国友にちなんだミニメントや案内板を建てたり、電柱を裏通りに移設する計画を立てたんです。

ところが長浜市の場合、全体事業費のうちの一割は地元負担、さらに電柱の裏通りへの移設は国友町が関西電力と直接交渉して、引き込み費用も負担する必要がありますがありました。たまたま関西電力側が「キヤノンの工場への高圧電力を地下埋設で送りたいので、協力してほしい」と言ってきた、移設費用は関電持ちになったのですが、用地交渉や電柱からの引き込み線の工事費用400万円ぐらいいは地元が負担しました。

※7 ベンガラ 漢字では「弁柄」もしくは「紅殻」。酸化第二鉄を主成分とする赤い顔料で、防虫・防腐効果があるとされる。

市の国友工業団地への協力金や個人の用地買収費がなかったら、全戸に自治会費以外の負担をお願いした資料館や風あい事業は、ここまでではできなかったでしょう。

——いろいろな要素がよいタイミングでかみ合ったんですね。

廣瀬 やつてる最中は先を考えてというのはなかったのが、偶然重なったんです。

吉田 当初は、「観光客なんか来ていらないか」「ゴミを残していくだけやろ」という意見もあったんですよ。ところが、ある女性の委員が、「お客さんが来るようになって初めて、家の中を片づけたり、花を生けたりするでしょう。町だって同じですよ」とおっしゃって。この言葉は、町づくりを進めるうえで、大きな力になりましたね。

町内の景観がよくなると、みんな目障りなものに目がいくようになるんです。「あのさびた波板はみとみない（見苦しい）」と言われて、杉板に貼りがえたり。同時に、観光客からは、湖北の伝統的な民家の特徴であるベンガラ塗りの赤い柱などについて質問を受けるようになって、自分たちの住む地域の風土や文化に気づくようになってきますし。

——先日、打ち合わせにうかがった日は、入れ違いで名古屋ナンバーの車が駐車場にはいつていました。

川上 東海方面からの来館者は多いですね。北は福井・富山・石川からも見えになりますし、もちろん大阪・京都からも。ただ、年間入館者数は、当初は平均して年に1万人前後だったのが、近年は5000〜6000人に減少しています。

吉田 NHK大河ドラマ「秀吉」にちなん

で「北近江秀吉博覧会」が催された平成8年（1996）度が、1万8739人で最多ですね。その後も大河ドラマ「功名が辻」があった平成18年度、「江」があった平成23年度は1万1000人台の入館がありました。令和2年の「麒麟がくる」でも国友の鉄砲鍛冶が登場しましたし。

廣瀬 大河ドラマにからんでくると、やっぱりお客さんがぐっと増えますわ。

川上 大河以外でも、最近だと昨年直木賞を受賞した今村翔吾さんの『塞王の櫓』で鉄砲鍛冶の国友衆と石垣積みめの穴太衆が活躍したり、昨年10月にはNHK連続テレビ小説『舞いあがれ！』で、主人公に父親が江戸時代に飛行機的设计図を描いた国友一

国友一貫斎の科学技術に関する研究

——関係資料が重要文化財に指定される国友一貫斎についても、館内にコーナーを設けておられますね。

吉田 一貫斎関係としては、当館開館の前年にあたる昭和61年（1986）に国立科学博物館にお務めだった天文学者の村山定男さんをお招きしてお話いただきました。国友町会館竣工記念で催した講演会です。

平成10年（1998）の春、現存している一貫斎製作の反射望遠鏡4基のうちの一つを所蔵している長野県の上田市立博物館で前年に始まった同望遠鏡の学術調査の一環として、調査団のメンバーだった京都大学理学研究科の富田良雄さんが、長浜城歴史博物館所蔵の1基を見に来られました。

当時、僕は長浜市の教育部長だったので、富田さんとの知遇を得て、同年秋には、当館の主催で国友町会館を会場に富田さんと国立天文台の中村土さんのお二人に講演していただいたんです。

廣瀬 その時、富田さんがベルト旋盤でつ

貫斎の話をするシーンが話題になったりしたので、そのファンの来館もあります。

——最近、館名を変更なさったのは、何か理由があったのですか。

吉田 私が館長を務めていた時です（平成29年度から4年間）。令和2年（2020）からの新型コロナウイルスの流行の前には外国からの観光客もちらほら来館なさるようになっていました。また、来館者のほとんどが県外の方で、かなり専門的な知識を持つておられる方が多いため、そうしたお客さんに対応できるようにレベルアップを図ってこうと考え、館の名称も「国友鉄砲の里資料館」とともに「国友鉄砲ミュージアム」を使用することにしたんです。

国友一貫斎の科学技術に関する研究

くった天体望遠鏡を持ってきたんです。脚も何もない無垢の真鍮を10cmずつくりぬいて接合した単純な構造の望遠鏡で、それに刺激を受けて、よし、わしもつくつたろうとなったんです。

吉田 そうして、反射鏡を研究する京都大学の先生方とのネットワークができました。一方で、廣瀬さんが立ち上げた「一貫斎科学技術研究会」にも、トヨタ財団から補助がもらえるようになったんです。

廣瀬 研究助成金が3年間もらえたので、望遠鏡とともに一貫斎製作の「玉燈」という灯火具などについても研究しました。

吉田 反射鏡の研究には、国立科学博物館の鈴木一義さんも加わっておられたのですが、国立科学博物館に預けられたトヨタコレクションなどを対象に、文部科学省からの補助で「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究（略称…江戸のモノづくり）」が、大学などの研究機関と連携して、平成13（2001）〜17年度の

計画で始まったんです。

——一貫斎の反射望遠鏡の中にある反射鏡に科学のメスが入ったわけですね。

廣瀬 すでに反射鏡の研究会の方では、大阪府堺市にあった三菱伸銅三寶製作所（2020年に三菱マテリアルに吸収合併）に依頼して、反射鏡に用いられた銅と錫の合金試料を製作なさっていました。

吉田 1830年代に製作されてから200年近く経ったのに、ピカピカでさびていない。富田さんらは、その不思議を研究なさっていたんです。上田市立博物館蔵の反射望遠鏡の主鏡の組成を分析されたところ、銅67%・錫33%の金属間化合物であることがわかりました。

ニュートンが発明した反射望遠鏡の場合は銅67%・錫22%・ヒ素11%、天王星の発見で知られるハーシェルは銅75%・錫25%、銀河の渦巻構造を発見したロス卿は銅70%・錫30%でしたが、これらは1年ぐらい経つと腐食して鏡面が曇るので再研磨しなければなりませんでした。

ところが、現存する一貫斎望遠鏡は、4基とも今でも天体観測ができるほど、劣化していません。富田さんは試作したそれぞれの割合の金属試料を2003年末から10年放置して2014年に反射率の比較をなさり、やはり一貫斎製作の金属反射鏡が、さまざまな銅・錫合金の中で最も耐食性にすぐれ、かつ光学的にもすぐれた性質をもっていることが明らかになったんです【次ページのグラフ参照】。

※8 トヨタコレクション トヨタ自動車が集めた江戸時代半ばから明治の初めにかけての日本の科学技術資料。

※9 金属間化合物 2種類以上の金属からなる合金の仲間だが、もとの金属とはまったく異なる結晶構造をもち、異なる特有の性質を示す。

廣瀬 僕は、三宝製作所で実際に見てきたんですが、錫の割合が少しでも増えると冷めるときに砕けるんですよ。

吉田 銅が多くなると、緑青^{ろくせい}、いわゆる青錆^{あおさび}が出るし、錫が多くなると、ざくざくと崩れやすくなるんだそうです。

廣瀬 ちょうど33%だと、もう永久にさびないのかもというぐらい。富田さんの講演から1週間ほどして、「反射鏡の研究会が始まるんですが、参加しませんか」と言われてうかがったら、反射鏡用の合金を分けてもらえたので、轆轤^{ろくろ}を手作りして研磨したんですよ。そして、一貫斎製作の望遠鏡と同じものを2台つくって、1号機は自分で天体観測に使って、長浜市に寄付した2号機を当館に展示しています「下の写真」。

——外観がそっくりだけでなく、実際に見えるんですか。

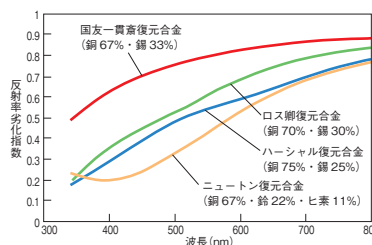
廣瀬 見えますよ。上田市立博物館蔵の望遠鏡をのぞいたことがある富田さんが、僕の1号機の見え方もだいたい同じぐらいだとおっしゃっていました。黒点も観測できるし、月のクレターもよく見える。2号機はさらに性能がよく、それを使ったワークショップが長浜城歴史博物館であった時にのぞいたら、もっとスカンと見えました。

情報を発信すると情報が入ってくる

——こうした大量の記録を残すようになったのは、江戸滞在中に元老中の松平定信から鉄砲製作に関する質問を受けたのがきっかけだそうだし、一貫斎の人生もいろいろな偶然が重なっていてもいいですね。

廣瀬 一貫斎は江戸でいろいろな人と交流して、自分の技術や知識を公開したから、その後の活動につながったんです。やっぱり情報を発信すると情報が入ってくる。

10年ほど前、「モノづくり」の話をして



↑ニュートン、ハーシャル、ロス、国友の反射鏡復元試料の反射率劣化指数
(富田良雄ほか「国友藤兵衛製作の反射鏡の耐食性について」掲載のグラフをもとに作図)

↓廣瀬さんが製作した復元反射望遠鏡



——この反射望遠鏡と「国友一貫斎文書」は、すでに長浜市指定文化財になっていたんですが、また改めて調査されたのですか。

川上 国友藤兵衛（一貫斎）家が保存しておられる資料のうち、これまでに調査されたものは限られていたので、長浜市が文化庁の補助金を得て、令和元年度と2年度に改めて調査なさったんです。すると、考案した飛行機の図面である「阿鼻機流大鳥秘術詳細図」をはじめ、反射望遠鏡用のレンズや製作道具などの新資料が見つかったので、これらを加えた953点が重要文化財に指定されることになりました。

吉田 今年4月から5月に官報告示されることで、正式に重文となるらしいです。

ほしいというので、刀鍛冶が有名な岐阜県関市などで講演したこともあります。職人の方々が聞きこられて、とても熱心でした。京都府城陽市にも、江戸時代に淀藩が木津川の河原で砲術訓練をやった絵図があるというので砲術の話をしにうかがいました。そうすると、得るものもすごく多い。

——川上館長の世代はどうですか。上の世代の、こうしたまちづくりを見てきて。

川上 来館者の対応をしていると、反射望

遠鏡の解説部分の誤りを指摘してくださいの方がおられたり、火縄銃でも非常にうれしい方がおられたり、非常に勉強になります。なかなか私たちの世代になると、廣瀬さんや吉田さんほど熱心な人が地元からは育っていないのですが。

吉田 僕の息子たちの世代もまったく関心がない方だから、次の世代に伝えていくのが難しいのはよくわかります。

廣瀬 いまのところ、うちの息子も全然興味がない。まずは、興味がある人を探して教えていかないと。

川上 今年、国友町が学区にあたる神照小学校が創立150年を迎え、5月には祝賀の催しもあります。神照小の学区内では最初の明治6年（1873）に国友村にできた小学校を始まりとしています。最初の校舎は日吉神社境内の蔵を改造したものであったのですが、何年かして、当館がある場所に開成学校という名前前で小学校が建てられました。当館は小学校跡地でもあるんです。創立150年の催しでは、廣瀬さんらの鉄砲隊による演武や、国友一貫斎の紹介なども予定されていますので、興味を持つ子どもたちが現れてくれればと思っています。——本日は興味深いお話をありがとうございました。

(2023.3.8)

『家康と甲賀忍者・大原一族』

おとおもはら こうが
太伴原 甲賀さん（滋賀県守山市在住）ペンネームでの執筆のため
忍装束に身をつつむ著者

プロフィール

京都市出身、滋賀県在住。1990年代より勤務地の愛知県岡崎や東京で家康と甲賀忍者の調査を始める。2000年代より大原同田中の記録を始める。業事功労者として滋賀県知事表彰、ならびに厚生労働大臣表彰を受賞。特許発明により近畿発明表彰を受賞。

「できるだけ若い人に甲賀忍者について知っていただきたい」

相談の開口一番そう告げた。

太伴原さんは甲賀忍者の末裔であり、8月に開催される一族の祭りにも毎年出席をする。その中で、一族の古老が語る多くのエピソードが、一般的な忍者のイメージと乖離していると感じていた。

「今残さなくては、重要な証言が死んでしまう」

甲賀は伊賀に比べて口伝くでんの割合が多い。もちろん、一族に伝わる連判状（書籍カバーに使用）などは脈々と引き継がれているものの、多くが言葉で伝わる。最初は口伝をどのような形にまとめるか迷ったという。古老

たちからは「忍者は秘すもの、本の形にするなんて」と乗り気でない声もあった。しかし小説なら、皆の手に取ってもらいやすい——と筆を進める。

そんな中、2023年大河ドラマの主人公が徳川家康との発表。甲賀は、家康と浅からぬつながりがある。切り口を家康と定め、数社と相談の上、地元ならではの対応が可能なサンライズ出版を選んだ。

担当者は紙の書籍と電子書籍の同時発行を提案。電子書籍なら、スマホなどでどこでも読めて、周りに薦めやすい。

「思ったより広い範囲から反響が返ってきています」と、寄せられた感想に笑顔を見せる。



一族に伝わる口伝を小説の形で表現した歴史小説。甲賀忍者と家康との関係が戦国時代の出来事を中心に描かれる。電子書籍版も同日発売した。

特別価格

若干名様限定

少部数 自分史

A5判 カラー32頁 上製本20冊

モニター特別価格 15万円

体験出版モニター募集

家族の写真をまとめた
趣味のファイリングを本にしたい
現在までの自分の半生をまとめた

でも何から始めればいいのか
わからない

経験豊かなスタッフが聞き取り取材！
スタッフが原稿を作成します！
文章を書くことが苦手な方にオススメ！

ご準備いただくのは
Q & A形式の原稿と載せたい写真



● お気軽にお問い合わせください

サンライズ出版

TEL.0749-22-0627 FAX.0749-23-7720

E-mail: info@sunrise-pub.co.jp

モニター募集係（竹内）

※モニターは定員になり次第
締め切らせていただきます

入館料：大人900円、高大生640円、小中生420円
会期中の休館日：5月8日(月)、5月15日(月)、5月22日(月)、5月29日(月)

■記念講演会

第1回「裏切られ信長—そして裏切らない家康—」
5月14日(日) 13:30～15:00

講師：金子拓氏(東京大学史料編纂所准教授)

第2回「松平信康・築山殿事件の真相」
5月28日(日) 13:30～15:00

講師：柴裕之氏(東洋大学非常勤講師)

参加費：各回1000円(特別展観覧料込(講演会当日限り有効))

定員：各回100名(応募者多数の場合は抽選)

お申込み方法：往復はがきによる事前申込制
(各回それぞれにお申込みが必要)

応募締切：第1回4月21日(金)/第2回4月28日(金)必着

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

ユネスコ無形文化遺産登録記念 小杖祭りの祭礼芸能 映像上映と写真パネル展

開催中～5月14日(日)

小杖祭りの祭礼芸能 —栗東の風流踊—

5月27日(土)～7月17日(月・祝)
栗東歴史民俗博物館



跳ね踊る太鼓打ちと太鼓受け

2022年、日本各地に残る「風流踊」が、ユネスコ無形文化遺産に登録され、滋賀県からも「近江のケンケト祭り長刀振り」と「近江湖南のサンヤレ踊り」が登録されました。後者に含まれる栗東市戸山の小槻大社の春の例祭である「小杖祭り」の祭礼芸能を紹介します。

入館料：無料

休館日：月曜日(7月17日を除く)、祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

令和5年度春季特別展 ねがいの歴史 —絵馬・連歌—

4月12日(水)～5月21日(日)
愛荘町立歴史文化博物館



桜に猿絵馬
(河脇神社所蔵)

絵馬とは、寺社へ祈願あるいは叶った後のお礼に奉納されたもので、有名な絵師によるものから庶民のものまでさまざまあります。

本展示では愛荘町内の絵馬・連歌を始め、帝塚山大学附属博物館が所蔵する絵馬もあわせて紹介します。

入館料：一般300円、小・中学生150円

休館日：月・火曜日

■展示解説 4月23日(日)、5月14日(日)
11:30、14:00(各30分)

参加費：無料(要観覧券)

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

令和5年度春季特別展 信長と家康 —裏切る者・裏切らざる者—

4月29日(土・祝)～6月4日(日)
滋賀県立安土城考古博物館

戦国の世に天下統一を進めた信長は、多くの武将や家臣からの裏切りを受けました。そんな中、どんな時も同盟者として味方であった徳川家康は、信長にとって頼もしい存在だったはずです。

本展では、信長を取り巻く人間模様を「裏切り」をキーワードに紐解き、その背景や心情・顛末を考えます。



徳川家康画像部分
(滋賀県立安土城考古博物館蔵)

春季テーマ展 草津今昔ものがたり —古写真でたどる記憶—

開催中～5月7日(日)
草津市立草津宿街道交流館



草津川マンボ(1963年、西岡写真工房提供)

この数十年の間に、草津市はまちの姿を大きく変え、かつての姿は人々の記憶の中から消えつつあります。本展では、草津市史編さんの際に収集した古写真や草津の老舗写真館「西岡写真工房」所蔵の古写真などから、懐かしい草津の風景をご紹介します。
入館料：大人200円、高校・大学生150円、小中学生100円

休館日：月曜日および祝日の翌平日

お問い合わせ先：TEL 077 (567) 0030

春期テーマ展 近江国野洲郡 永原御殿 —徳川将軍の宿泊所—

開催中～5月28日(日)
野洲市歴史民俗博物館



永原御殿模型(一部)
(野洲市歴史民俗博物館蔵)

野洲郡永原は、慶長6年(1601)ごろ、徳川家康が「永原御殿」と呼ばれる城郭を建てた地です。以後、3代までの将軍が上洛の際などに永原御殿を利用するようになりました。今回の展示では、永原御殿跡で採集された瓦や土器、御殿ゆかりの絵図などを紹介します。

入館料：大人300円、学生150円、小中学生100円

休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 077 (587) 4410



おとなの総合的な学習

東近江の小学校周辺にかかわる様々な疑問の件

奥田 守 著

B5判並製本 総130頁 非売品

問合先 東近江市鈴町205 (著者)

なぜ、市原小学校区には白鳥神社が5つもあるのか？ 御園小学校区にあった御園駅の正確な位置は？ 素朴な疑問の謎を解き明かした6編を収録。(2023.2.15刊)



COOL

車イスから撮り続けた30年

はりま自立の家写真同好会 著／古谷桂信 編
146×180mm並製本 総136頁 非売品

問合先 furuya.katsunobu@gmail.com (編者)

兵庫県にある「はりま自立の家」で、身体に障害のある入居者がそれぞれに合わせた撮影方法で四季や入居者の暮らしを撮影してきた。写真に短歌をそえた写真集。(2023.2.20刊)

まちづくりと私

高橋政之 著

B6判並製本 総160頁 非売品

問合先 長浜市三ツ矢町10-1 (著者)

長浜青年会議所OBらを中心に設立された「ながはま21市民会議」の初代会長、株式会社黒壁の3代目社長を務めた著者が、40年にわたる長浜のまちづくりを振り返る。(2023.3.31刊)



算額奉納した郷代官井上家の物語

青少年赤十字の先駆者井上定雄の家系

中西 隆・井上 遊 著

A5判並製本 総208頁 非売品

問合先 近江八幡市杉森町85 (著者)

代々郷代官を務め、善勝寺(栗東市、廃寺)に算額を奉納した井上家29代と32代、その子孫で守山小学校に日本最初の青少年赤十字を誕生させた井上定雄の人生を追う。(2023.4.1刊)



BOOKS

特別展示

豊かな自費出版物の世界

守山市立図書館、長浜市立長浜図書館に引き続き、「日本自費出版文化賞」(主管：NPO 法人日本自費出版ネットワーク) 受賞・入選作品と滋賀県ゆかりの自費出版物を展示します。

期間 開催中～4月30日(日)予定

会場 長浜市立高月図書館



第25回 特別賞

やさしいネイチャーウォッチング

自然を守り育てる仲間づくり
村上宣雄 著



第5回 大賞

北近江 農の歳時記

国友伊知郎 (吉田一郎) 著



第25回 入選

地図から消えた村

琵琶湖源流七集落の記憶と記録
吉田一郎 著



第19回 部門賞

近江絹糸「人権争議」はなぜ起きたか
近江絹糸「人権争議」の真実

朝倉克己 著



第25回 入選

朱兎象句集

山村修三 著

ほか、第24回以前の入選作品など、滋賀県ゆかりの自費出版物多数。手にとってお読みいただけます。

「日本自費出版文化賞」についてはこちら→

※小社が承った書籍を応募される方はご相談ください。
さまざまなアドバイスをいたします。



自費出版に関するお問い合わせ：サンライズ出版 TEL 0749 (22) 0627

国登録有形民俗文化財・登録記念展

甲賀売薬の製造・販売用具

開催中～9月30日(土)

甲賀市くすり学習館



令和5年3月、「甲賀売薬の製造・販売用具」2,488点が、国の登録有形民俗文化財に登録されました。これらは甲賀の産業の歴史や薬業の変遷、薬を売り歩いた交易の状況を知ることができる貴重な文化財といえます。国登録を記念した企画展を開催しています。

入館料：無料

休館日：月曜日 (祝日の場合は翌日)

お問い合わせ先：TEL 0748 (88) 8110



漫画 西川甚五郎伝

西川文化財団 企画・監修、宮本ユカリ 画
A5判上製本 総48頁 1100円（税込）

江戸に幕府が開かれるとともに日本橋に出現。二代目が創案した萌黄の蚊帳が大ヒット商品となるが、大火や天災、明治維新、関東大震災と、店は次々危機に直面するのだった。老舗寝具メーカーの歩みを漫画で描く！

1時間でわかる家康と近江

太田浩司 著
A5判並製本 総80頁 2200円（税込）

菅浦の代官だった家康の先祖、本能寺の後の家康の避難ルートは伊賀越えか、甲賀越えか、天下取りの前に立ちちはだかった近江出身の石田三成と淀殿など、徳川家康と近江にまつわるさまざまなエピソードを紹介。



天武・持統天皇の時代

たかとい 高樋しんご 著
四六判並製本 総228頁 2200円（税込）

7世紀後半、律令を根幹に据えた中央集権国家への歩きが始まり、産業も文化も開花に向けて大きく飛躍した。神祇と政治、大陸や半島との交流、技術革新などにふれつつ、時代構造の透視図を描く試み。



行政経営改革の理論と実務

横山幸司 編著
A5判並製本 総248頁 2200円（税込）

滋賀大学で開講されている「行政経営改革塾」の講師陣の基調講義録を基に、書き下ろしを加え再構成。公会計による財務分析、自治体 DX、BPOの推進など、行政経営改革に欠かせない最先端の内容を解説。



表紙写真 国友鉄砲ミュージアム2階展示室

編集後記 NHKのBSプレミアムで放送されている『コズミック フロント』という番組の令和3年（2021）11月18日放送回「江戸のダ・ヴィンチ 国友一貫斎」では、一貫斎製作の空気銃や望遠鏡、飛行機設計図に科学的な検証を加えています（現在もNHKオンデマンドで視聴可能）。俳優の眞島秀和さんが一貫斎を演じたドラマパートでは、さすがに本物は貸し出せなかったので、廣瀬一實さんが復元した反射望遠鏡が使われているのだそうです。㊥



別冊 淡海文庫28 江戸時代の長浜湊と船持ちたち

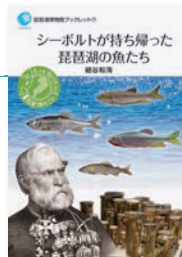
北川 徹 著
B6判並製本 総224頁 2200円（税込）

現在の長浜港とは異なり、北国街道に隣接する米川下流に位置した江戸時代の長浜港。丸子船や荷駄、船問屋や船持に関する記録を整理し、当時の長浜湊の姿を探索。

琵琶湖博物館ブックレット17 シーボルトが持ち帰った琵琶湖の魚たち

かすみ 細谷和海 著
A5判並製本 総120頁 1980円（税込）

シーボルトが持ち帰った動植物の標本は、今も分類の指標となるタイプ標本となっている。分類と進化にまつわる興味深いエピソードをまじえて、主要魚種の標本と精緻な図版を紹介。



滋賀の石橋とマンボ

石造りの橋と隧道・地下水路トンネルめぐり

森野秀三 著、森野雄二郎 編
A5判並製本 総176頁 2420円（税込）

滋賀県の神社仏閣などにある石造りの橋や、日本最古の総石造りトンネルである大沙川隧道（湖南市）をはじめとするマンボ（トンネル）、県外の農業用地下水路をオールカラーで紹介。



薩長と最後まで戦った男

越後長岡藩家老・河井継之助

幸田 進 著
四六判上製本 総264頁 2420円（税込）

後に越後長岡藩家老となり、薩長と干戈を交える河井継之助は、江戸と松山で師と仰ぐ人に出会い、見聞を深めた。北越戦争を中心とした幕末の動亂を生き抜く姿を活写した歴史小説。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet 編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先